

高知工業高等専門学校
ソーシャルデザイン工学科

4年 岡村涼太郎

自動マーケティングが
創る高知の未来!

課題先進県「高知」

導入

全国に10年先駆けて人口減少が始まっている



RESAS

→ 言い換えれば、人口減少こそが地方衰退の原点

課題先進県「高知」

導入

年間移住者数および新規相談者数（高知県）



令和元年12月末における移住実績（高知県）

移住実績(12月末)

727組1,013人

対前年同期比108%

※移住先地域不明者等
(93組109人を含む)

安芸地域

126組149人
(99組126人)

仁淀川地域

64組106人
(43組63人)

物部川地域

58組89人
(61組111人)

高幡地域

78組100人
(74組91人)

高知市地域

124組201人
(114組186人)

幡多地域

152組220人
(167組226人)

嶺北地域

32組39人
(26組46人)

では、どのように人口を増やすか？

→ 移住者を増やすことが近年のトレンド

実績を見てみると、高知市内に限らず県内東から西まで多岐に渡っている。

→ 高知に来てもらわないと始まらない！
観光を活性化させる必要あり！！

高知県の県外観光客の推移



(県外観光客入込・動態調査報告書)

観光客による県内消費額 (一人当たり)

課題

H.22に龍馬伝の放送
土佐・龍馬であい博
の実施

増加傾向
減少傾向

観光客がお金を消費しやすいところとは？

課題



宿泊費は全体の27%



観光消費額単価
日帰り 8806円
宿泊 29465円
国土交通省

その差はなんと 20659円！

(県外観光客入込・動態調査報告書)

県外観光客の滞在日数の推移

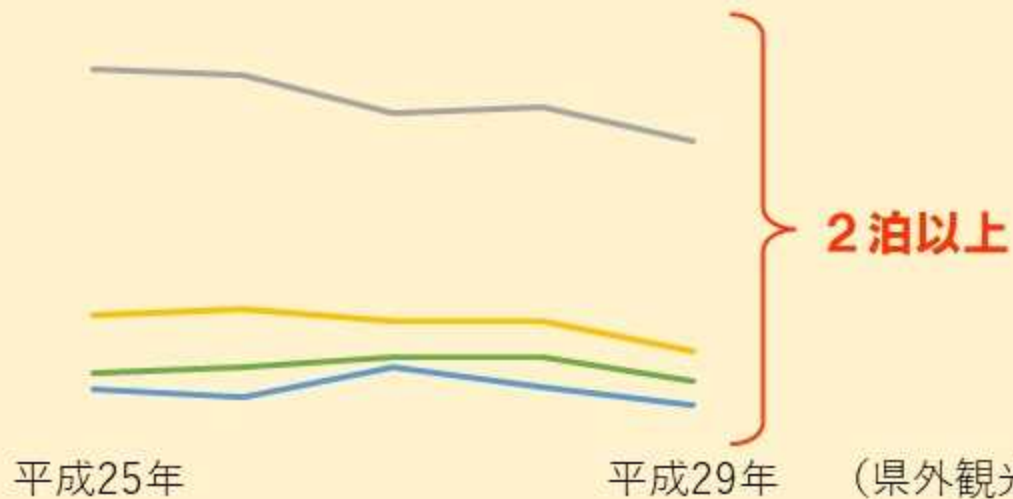
課題



2泊以上の
観光客が減少



宿泊費の
消費額が低下



平成25年

平成29年

(県外観光客入込・動態調査報告書)

そもそも宿泊者数の傾向は？

課題

延べ宿泊者数（総数）の推移



どの年も
300万人泊前後



観光客の増減に
関係していない

RESAS

宿泊施設の客室稼働率（従業員規模別）

課題



2020年 総施設数**667**
従業員0~9人の施設数**567**

RESAS

従業員の少ない
宿泊施設の
客室稼働率が低い

ほとんどの民宿等が
部屋を余らせている

RESAS

課題

増加傾向にある観光客に対しての
減少傾向にある観光客の消費額

解決するために

宿泊施設の稼働率向上と
観光客の滞在日数増加



ホテルやレジャーの情報を集約

ホテルやレジャーの情報をクラウドに集約

アイデア

県下のホテルやレジャー、飲食店の情報や空き状況を1つのクラウド上に集約させ情報をウェブページにて一括公開。

- ・情報格差が無くなる
- ・利用者が探しやすいくなる
- ・利用者のニーズに対応できる
- ・外国語表記が全てにおいて可能である

できること

ホテルやレジャーの閲覧・予約・決済

既存のまとめサイトではダメなのか

アイデア



これらは全国版で作られているため、地方の民宿や旅館など掲載されていない可能性が高く、場所によっても情報量に差がある。

県という規模の中で、比較できる情報を提示することが重要。

AI

Artificial Intelligence

IoT×おもてなし

00101000101
0001010

IoT おもてなしクラウドとは？

スマートフォンやICカードなどをクラウド上で連携させることで、**外国人旅行者がストレスなく日本滞在を楽しむためのさまざまなサービスを提供するシステムのこと（総務省）**

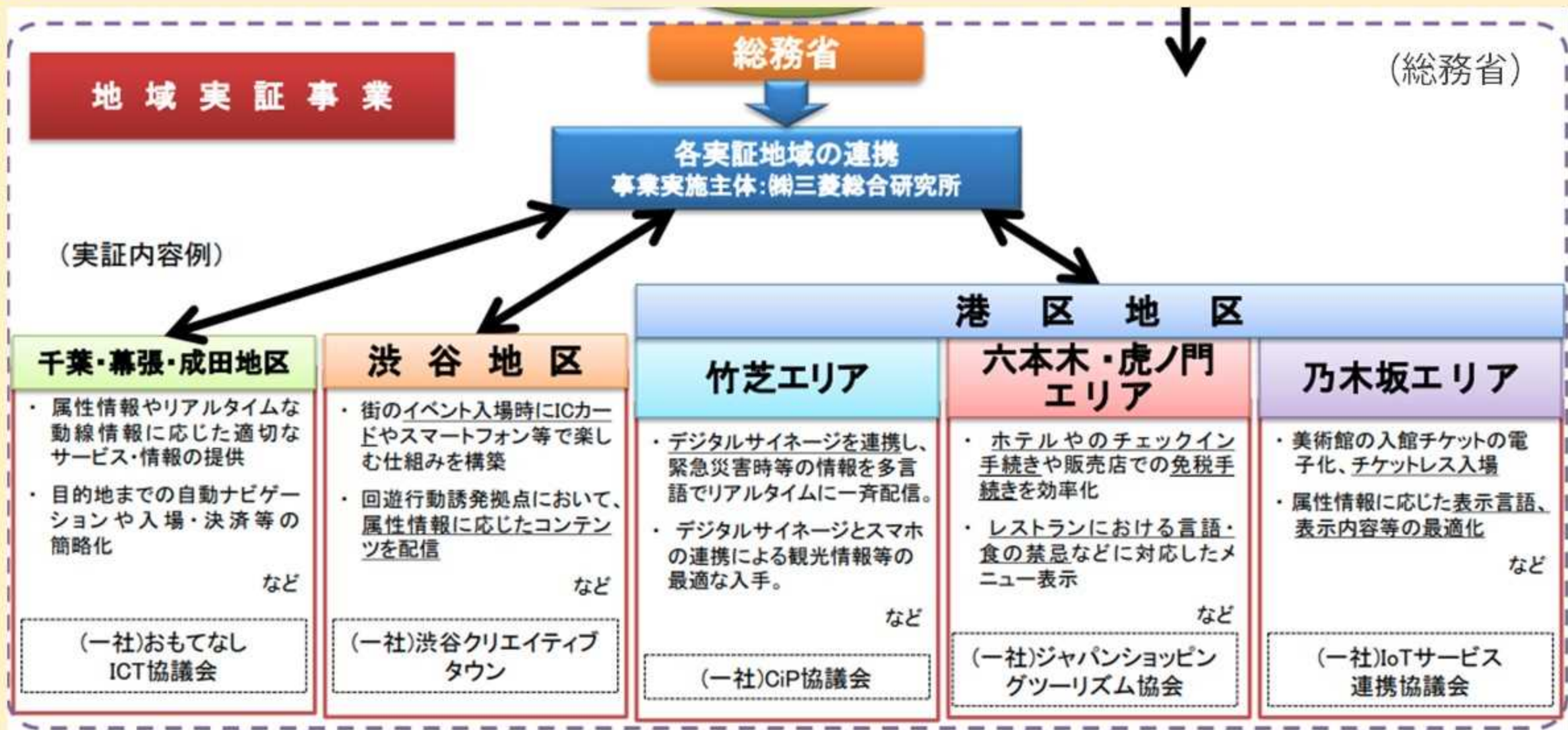
- 1 訪日外国人がパスポート情報や使用言語などの情報をクラウド基盤に登録
- 2 クラウドに登録した情報と、スマホやICカードなどを紐づける
- 3 各種サービスを利用する際にクラウド上の情報が呼び出され、その人に最適なサービスが提供される

登録できる情報

年齢・性別・血液型・母国語・アレルギー情報・食の禁忌など

IoT おもてなしクラウドの活用例

アイデア



クラウドを通じて双方をマッチングさせる
短期間から長期間まで様々なプランを提供する

観光客

- ・プランを考える手間がない
- ・通常より安くで行ける
- ・自分に合ったサービスを受けられる

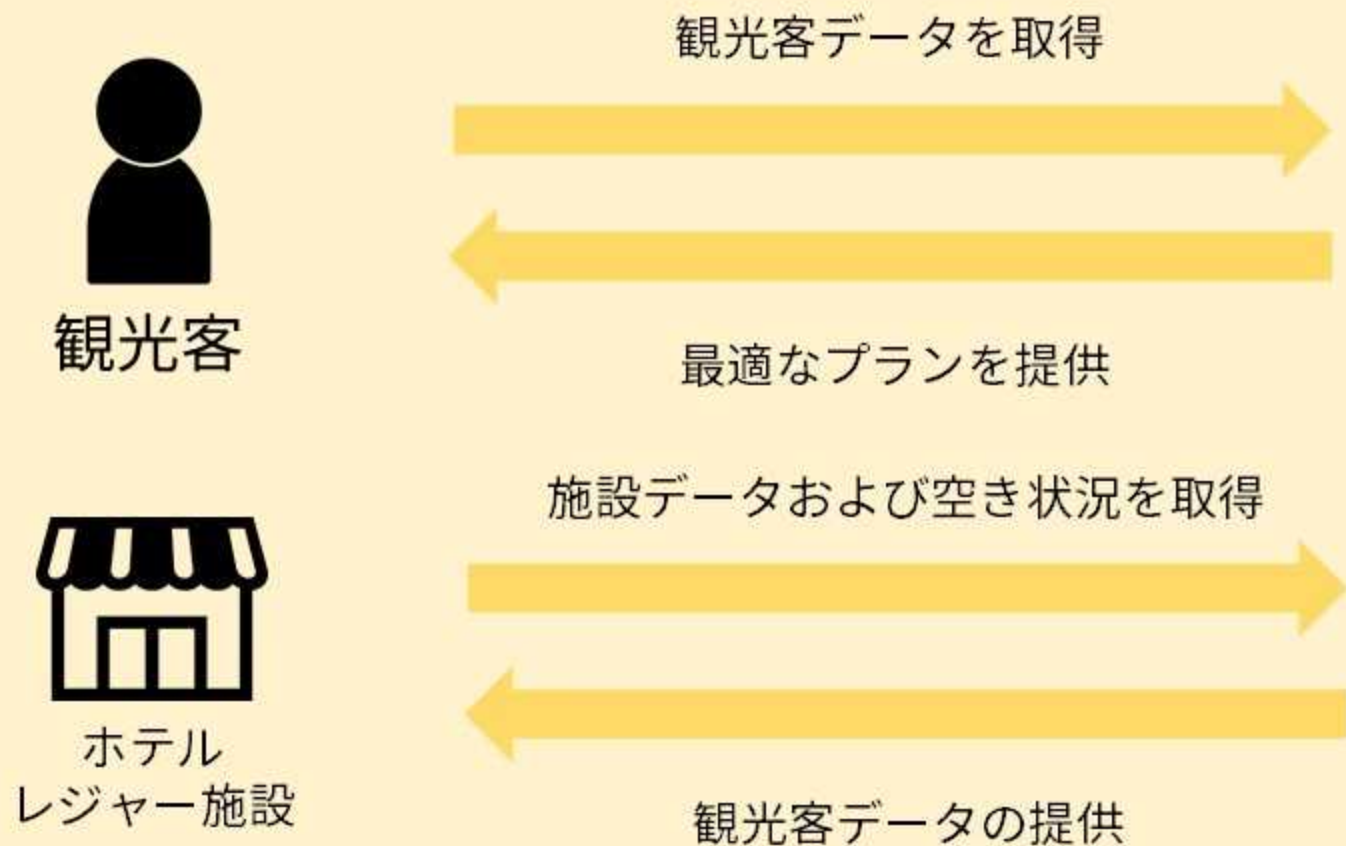
施設

- ・集客がより楽になる
- ・閑散期にも利用してもらえる
- ・おもてなしの準備ができる

今回は**能動的に来たいという人**をターゲットとするが
自動作成したプランをDMで送ることで
リピーターの獲得も期待できる

具体的な活用例

解決策



IoTおもてなしクラウド

それぞれから得たデータを管理しながら、双方の最適なマッチングを行う。

集まったデータの活用

将来性

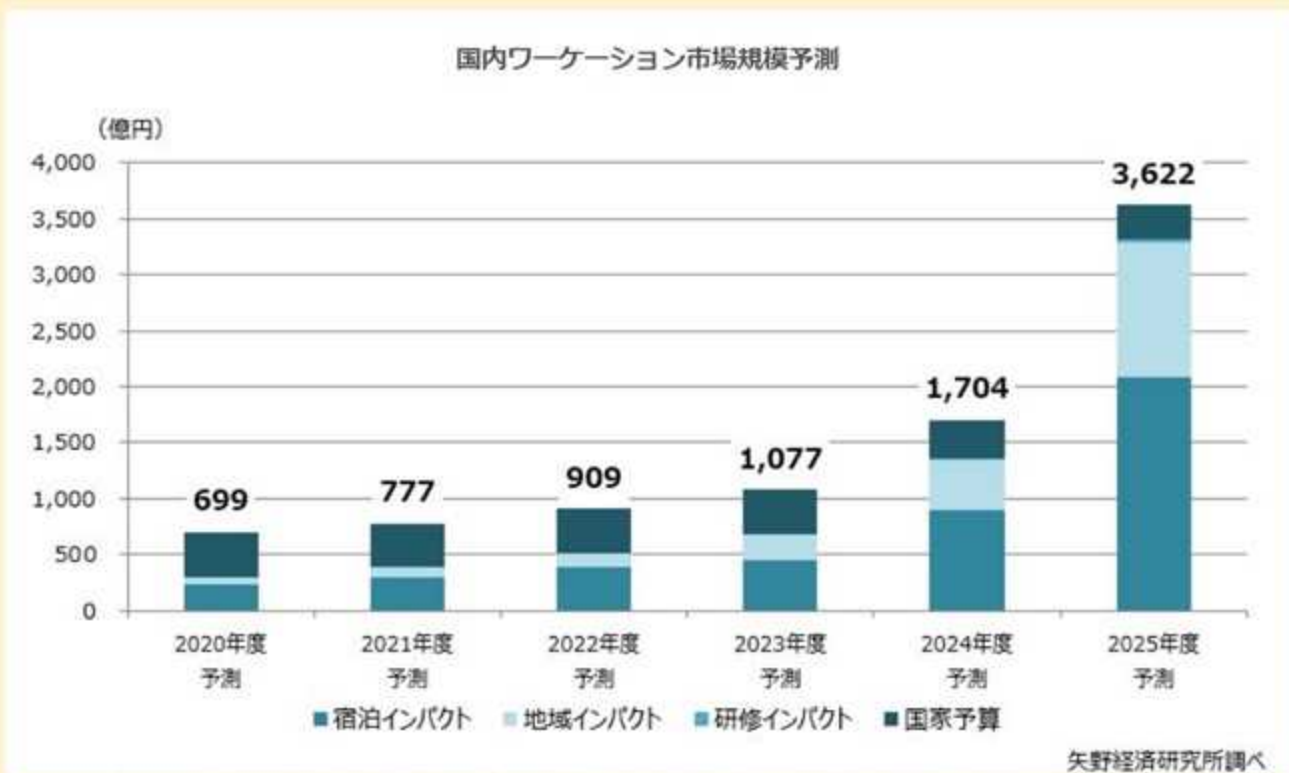
小さな民宿等においても得られた情報の運用が簡単に行えるため、業務改善に繋がりやすい。

得られる情報を任意で一般公開することにより、小学校や中学校での課題解決授業に役立ててもらい、産学連携を図る。

新たなターゲットの開拓

将来性

ワーケーション客へのアプローチ



・ワーケーション

ワーク+バケーションの造語
→仕事をしながら旅行を楽しむ

コロナ禍でテレワーク化が進み、どこでも仕事ができるようになってきた。

5年後の市場規模予測から見ても、ビジネスになる可能性は十分に高いと考える。



ご清聴ありがとうございました

